

国際規格の動向—国際会議に出席して—

ISO/TC42/WG5/TG2・TG3(写真/画像の保存性)フィラデルフィア会議

* 渡辺 真

次回国際会議は、2015年6月2日～5日北海道札幌にて開催される。

2014年9月4日から6日にISO/TC42/WG5(物性・保存の試験法)/TG2(Storage and Mechanical Properties)、TG3(Stability of Color Pictorial Images)が、フィラデルフィア(アメリカ)で開催された。当社須賀社長と渡辺が参加しアメリカ・イギリス・ベルギー・オランダ・日本の5ヶ国19名が参加した。

審議は、TG2/ではISO 18948(Photo book)、ISO 18935(Water fastness)、TG3/ではISO 18930 TR(Outdoor Durability)、ISO 18937(Indoor Light stability)、ISO 18944(Test Target)、ISO 18940-1(Specification)と△E表記について、[TC130/JW14(Graphic technology)とTC42とのJoint Work]等について行われた。

(1) ISO 18937 について

2014年2月に規格化されたが、簡略化の為の案について審議された。須賀から現行規格との比較表を用いて試験条件が大きく変更されている事を指摘、試験片温度25～30℃、放射照度は固定でなく80klx以下にて試験する事が再確認された。アトラス社が、スガ試験機、Q-Labと、ブラックパネル温度(BPT)、槽内温度及び放射照度について矛盾のないように提案することとなった。また、書式についてもISO 4892-2に沿ってまとめることで簡略化できることを提案した。

(2) ISO/TR18930(Technical Report) について

RRTest(TGメンバー間の実試験)の結果をまとめたTRに、キャノン殿とスガ試験機で準備したAnnex C～Fを追記して報告された。今後、P-memberに回送、投票を行い発行される。

(3) △E 表記

退色の評価に△OD(Optical Density)を使用しているが△E(色差)が有用か議論され、ISO 18940、TC130に使用していくことが提案されている。

次回会議の為に2015年4月1日までにNPを準備する。

(4) TC130/JW14 と TC42 の Joint について

2014年8月にTC42のTC130/JW14へのJointが認められTC42にJWG 27が発足する事になった。



ボートハウス
Fairmount Rowing Association Boathouse Row



自由の鐘
The Liberty Bell in Independence Hall

ISO/TC61(プラスチック) ロンドン・ハワイ国際会議

** 片野 邦夫

2014 年 9 月 10 日、11 日に SC4(燃焼挙動) の WG 会議がロンドン (イギリス) で開催された。

SC4/WG8(着火、燃焼の広がり及び燃焼発熱) には、アメリカ・イギリス・ベルギー・フランス・日本の 5 ヶ国 10 名が参加した。NWIP4589-1,-2,-3(酸素指数試験法) について、今年 3 月の SC4 ロンドン会議までの議論を基に作成した CD(Committee Draft) 案を提出、CD 案作成中に新たに出た検討事項についても意見交換を行い、CD 案の修正を行った。現在、最終チェックを経て CD 投票中。

2014 年 9 月 22 日に SC2(機械的性質) の WG 会議がハワイ州 (アメリカ) で開催された。SC2/WG2(硬さ及び表面特性) には、アメリカ・イギリス・ドイツ・スペイン・マレーシア・チェコ・タイ・インド・韓国・日本の 10 ヶ国 23 名が参加した。直線性、再現性に優れた摩耗試験方法として、陽極酸化皮膚膜、塗料、安全標識等の分野で既に実績のある往復平面摩耗試験^{*1}の概要と、プラスチックにもその試験方法の適用が可能であることをプレゼンし、TC61 での ISO 規格化を提案した。その結果、SC2/Plenary 会議にて往復平面摩耗試験を PWI として登録することが決議された。

*1 当社製スガ摩耗試験機 NUS-ISO3 型が該当

*** 喜多 英雄

2014 年 9 月 22 日に SC5/WG11(分析方法) の会議がハワイ州 (アメリカ) で開催された。インド・スイス・イギリス・アメリカ・タイ・オランダ・日本の 7 ヶ国 14 名が参加した。日本提案の ISO 17221(像鮮明度の求め方) と ISO 17223(黄色度及び黄変度の求め方) が 2014 年 4 月 29 日に発行された。また ISO 15512(水分含有量) は、2014 年 9 月 1 日に発行された。ISO 17221 プロジェクトリーダーの当社須賀社長がこれまでのメンバの協力に謝辞を述べた。

9 月 22 日から 23 日には SC6/WG2(光暴露) 会議が開催された。ドイツ・チェコ・フランス・韓国・イギリス・アメリカ・日本の 7 ヶ国 16 名が参加した。

ISO/DIS4892-1(実験室光源による暴露試験方法 第一部：通則) は、投票結果について議論され、FDIS(Final Draft International Standard) に反映させることとした。またドイツから将来的に BPT などの裏面等の仕様とデータが必要と提案があった。ISO/TR17801 太陽の全天日射スペクトルは、2014 年 6 月 17 日に発行された。

ISO/DTS19022(高照度実験室光源による暴露方法) は、投票結果について議論され、改正案を内部回送し、主要なコメントがない場合、発行することとした。

定期見直しの案件のうち ISO 877-1,2,3(太陽放射暴露方法) は、投票結果について議論され、改正案を内部回送し、主要なコメントがない場合、FDIS へ進めることとした。また ISO 9370(耐候試験における放射露光量の機器による測定) は、投票結果について議論され、付属書にスペクトラルミスマッチについての情報を入れ、CD としてスタートすることとした。ISO 4582(暴露後の色の変化) は、測色関係の規格の廃止 (ISO 7724-1 が ISO 11664-1,2 に置き換え、ISO 7724-2,3 が ISO 11664-4 に置き換え) につき、改正案を DIS(Draft International Standard) 投票に進めることとした。

ISO 4892-3(実験室光源による暴露試験方法 第三部：紫外線蛍光灯) は、コンビネーションランプに分光放射照度分布の要求事項を追加し、FDIS へ進めることとした。

将来の作業項目として韓国から集光屋外暴露試験と夜間等の人工光源暴露試験の連結試験についての提案があった。



会議風景

* 製造本部 製造技術部 部長 ** 製造本部 製造技術部 主任 *** 校正部 次長

IEC/TC104(環境条件、分類及び試験方法) 北京国際会議

* 齋藤 公平

2014 年 10 月 13 日から 10 月 17 日に IEC/TC104 :Environmental conditions, classification and methods of test(環境条件、分類及び試験方法) の会議が北京 (中国) の北京航空航天大学 (Beihang University) にて開催された。主に当社と関係のある MT16(IEC 60068-2-60: 混合ガス流腐食試験、IEC 60068-2-52: 塩水噴霧 (サイクル) 試験方法 (塩化ナトリウム水溶液) 及び MT18(IEC 60068-2-5: 地表レベルの擬似太陽照射及び指針) について報告する。

〈MT16〉

・ IEC 60068-2-60: 混合ガス流腐食試験

前回のスウェーデン・シスタ会議 (2013 年 7 月開催) の内容が反映された 104/631/CDV(Committee Draft for Vote) が 2014 年 2 月に各国へ回送され、各国からの意見が、2014 年 5 月に集計された (Voting Result on 104/631/CDV)。今回の北京会議ではこの投票結果を元に、アメリカ、ドイツ、スウェーデン、中国、日本の 5 ヶ国 11 名が参加し議論が行なわれた。投票結果は 10 ヶ国中、賛成 9 ヶ国 (コメント有り: 中国・日本)、反対 1 ヶ国 (コメント有り: ドイツ) であった。コメントの内容はほとんどが編集上の軽微な修正であり、会議中に解決する内容であった。会議後、2014 年 12 月 19 日には ADIS(Approved for FDIS circulation) として会議でのコメント集が回送され、2015 年 3 月には FDIS(Final Draft International Standard) として回送される予定である。

・ IEC 60068-2-52: 塩水噴霧 (サイクル) 試験方法 (塩化ナトリウム水溶液)

この規格は、1996 年に第 2 版として発行されており、見直しの時期を迎えていた。試験内容は、塩水噴霧試験 (15 ~ 35℃)、湿潤試験 (40℃、93%rh)、大気放置試験 (23℃、45 ~ 55%rh) の 3 種類の試験を組み合わせるものである。現在、塩水噴霧試験で代表的な ISO 9227 規格と比較して、試験条件の相違点や必要情報の欠落がある旨を委

員会の場で説明し、改正の必要性が審議された。結果、当社須賀社長がプロジェクトリーダーとなり、改正作業を進める事となった。会議後の 2015 年 2 月に改正案 CD(Committee Draft) が回送された。

〈MT18〉

・ IEC 60068-2-5: 地表レベルの擬似太陽照射及び指針

アメリカ、中国、ドイツ、スウェーデン、フィンランド、韓国、日本の 7 ヶ国 17 名が参加した。前回のスウェーデン・シスタ会議 (2013 年 7 月開催) では、本規格が試験を行なう上で必要な項目ブラックパネル温度 (BPT)、ブラックスタンダード温度 (BST)、光源のフィルタ条件、湿度などが記載されていない旨を説明し、プロジェクトリーダーであるドイツに改正を委ねていたが、1 年経過した時点で改正に対する進捗が全くなく、今後も作業を進める事が難しいとの事であったため、当社須賀がドイツに変わりプロジェクトリーダーを務める事となった。



会議風景

* 製造本部 技術開発部 課長